

大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか 発達障がい者地域支援力向上事業

大阪府発達障がい者支援センター
アクトおおさか センター長代理
岡 あゆみ



改正 発達障害者支援法

平成28年8月1日から施行！

「改正発達障害者支援法」3つのポイント

1

ライフステージを通じた切れ目のない支援

医療、福祉、教育、就労等の各分野の関係機関が相互に連携し、一人一人の発達障害者に、「切れ目のない」支援を実施することを目的規定に追加しました。

2

家族なども含めた、きめ細かな支援

教育、就労の支援、司法手続における配慮、発達障害者の家族等への支援などの規定の改正を通じて、きめ細かな支援を推進します。

3

地域の身近な場所で受けられる支援

地域の関係者が課題を共有して連携し、地域における支援体制を構築することを目指します。また、可能な限り身近な場所で、必要な支援が受けられるように配慮します。

大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか

直接支援

発達障がいの
ある方やご家族
から直接相談を
受けている

間接支援

発達障がいのある方やご
家族を支援している支援
者をサポート & 発達障が
いのある方が暮らしやす
い地域づくり

家族支援の充実：ペアレント・メンター事業

関係機関とのネットワーク構築：連絡協議会など

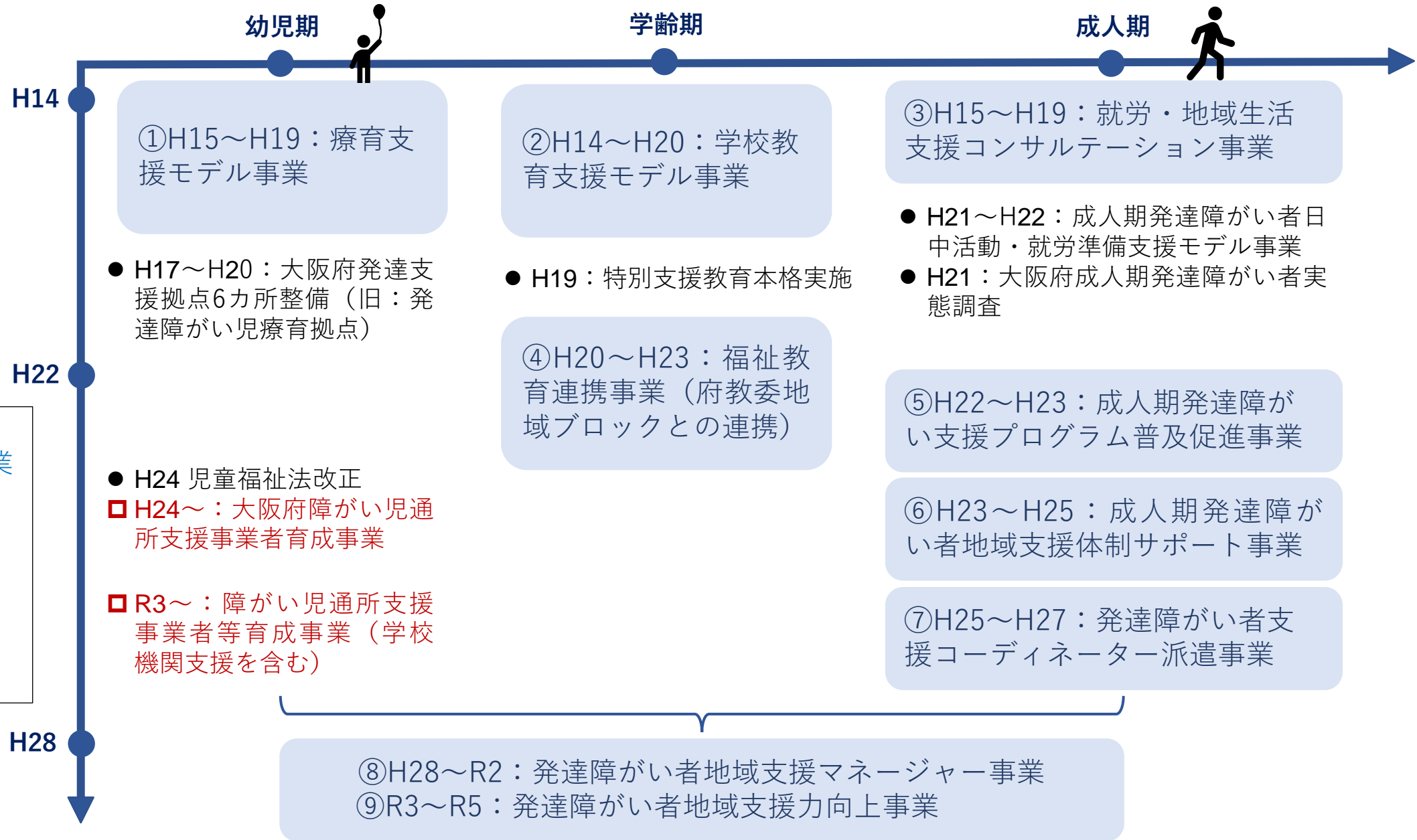
普及・啓発：府民や支援者対象の公開講座・研修

支援体制の構築や人材育成：コンサルテーション事業

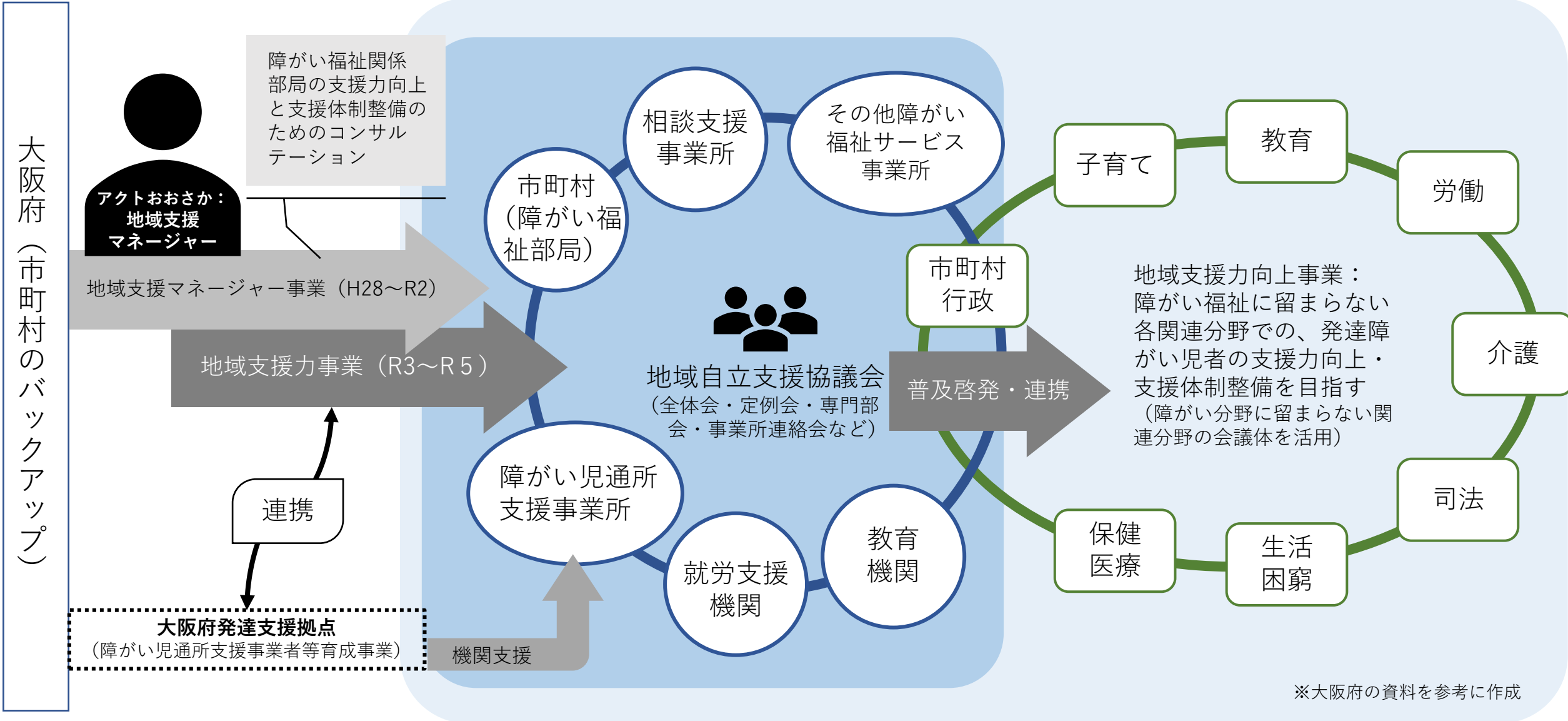
ミッション：

発達障がいのある方々が（大阪府のどこに住んでいても）身近な地域で、生涯にわたり自分らしく豊かに暮らしていける社会を目指して、発達障がいの理解や支援方法の普及とライフステージを通じた一貫した支援体制の構築を行う

アクトおおさか コンサルテーション事業の流れ



地域支援マネージャー事業から地域支援力向上事業へ

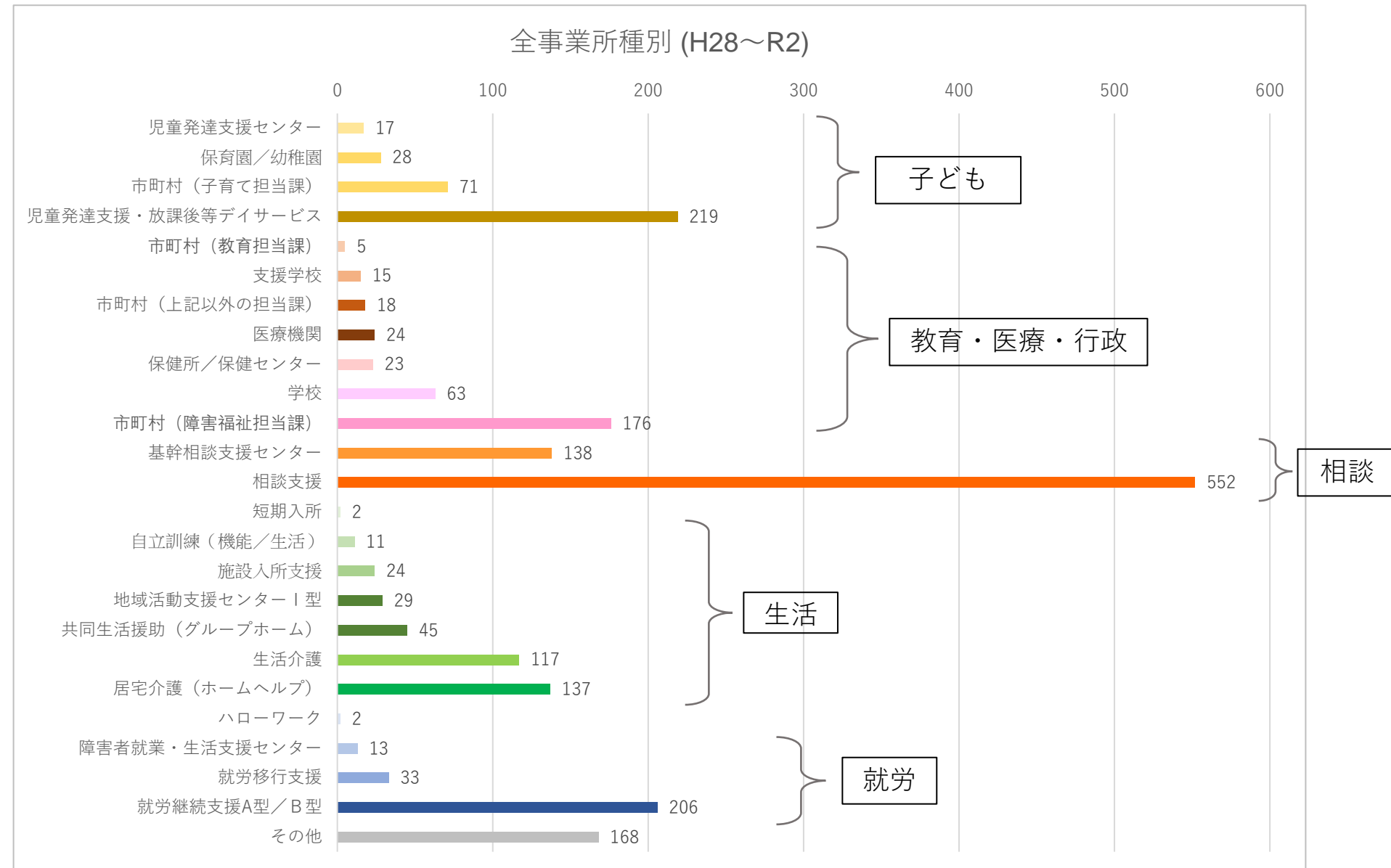


※大阪府の資料を参考に作成

発達障がい者地域支援 マネージャー事業にお ける事業所種別の内訳 (5年間まとめ)

上位5つの事業所は、
それぞれ異なる5つの
機能種別に属しており、
幅広い事業所にコンサル
を行ったと言える。

- 1 相談支援
- 2 児発・放デイ
- 3 就労継続支援A型、B型
- 4 障がい福祉担当課
- 5 居宅介護

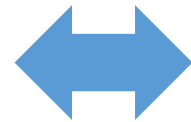


事業活用の流れ

6～7月

打合せ

- 市町村の現状と課題の共有、ニーズの聞き取り
- 事業内容の調整



8～1月

事業実施

- 人材育成のための研修
- 連携やネットワーク構築
- 支援体制づくりなど



2～3月

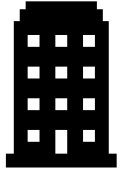
振り返り

- 取組みの成果
- 残る課題や今後についての整理



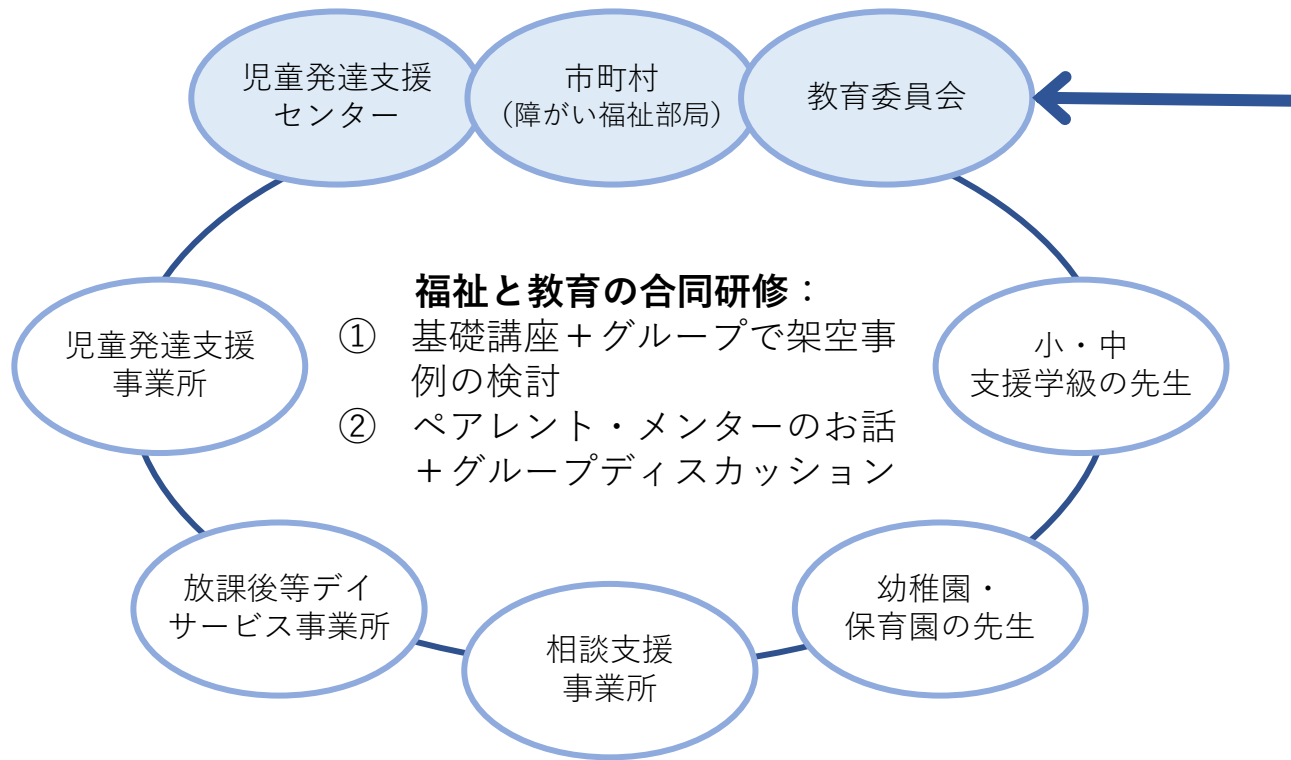
ニーズに応じた様々な取組み例

ニーズ・目的	実施内容
障がい特性の理解を深め、支援者同士が共通言語を持つ	発達障がいの基礎講座 ：発達障がいの特性、特性に合わせた支援方法、発達障がいのある方の権利擁護等についての講義 疑似体験 ：発達障がいのある方の見え方や感じ方等について疑似体験するためのプログラム
見えない障がい特性に気づき、個別に合わせた支援方法を考える	気づきのためのワーク ：架空事例等を通して、発達障がいの特性への気づきを深めるためのグループワーク 行動の背景を知るワーク ：架空事例等を通して、冰山モデルで言動の背景をアセスメントする練習をグループワークで行う 事例検討会
自分たちの地域の現状や課題を知る	地域診断ツール（Q-SACCS）を活用した地域アセスメントの実施（現状の把握や課題整理など）
家族支援の充実	ペアレント・メンターのお話（ ペアレント・メンター事業 との連動）



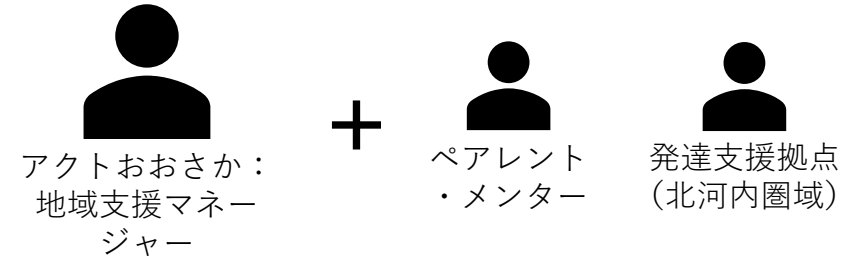
守口市
(人口：14万人)

子どもを取り巻く支援者が同じ方向を向いてサポートできる様に
共通認識を持ちたい。また、連携の場づくりをしたい

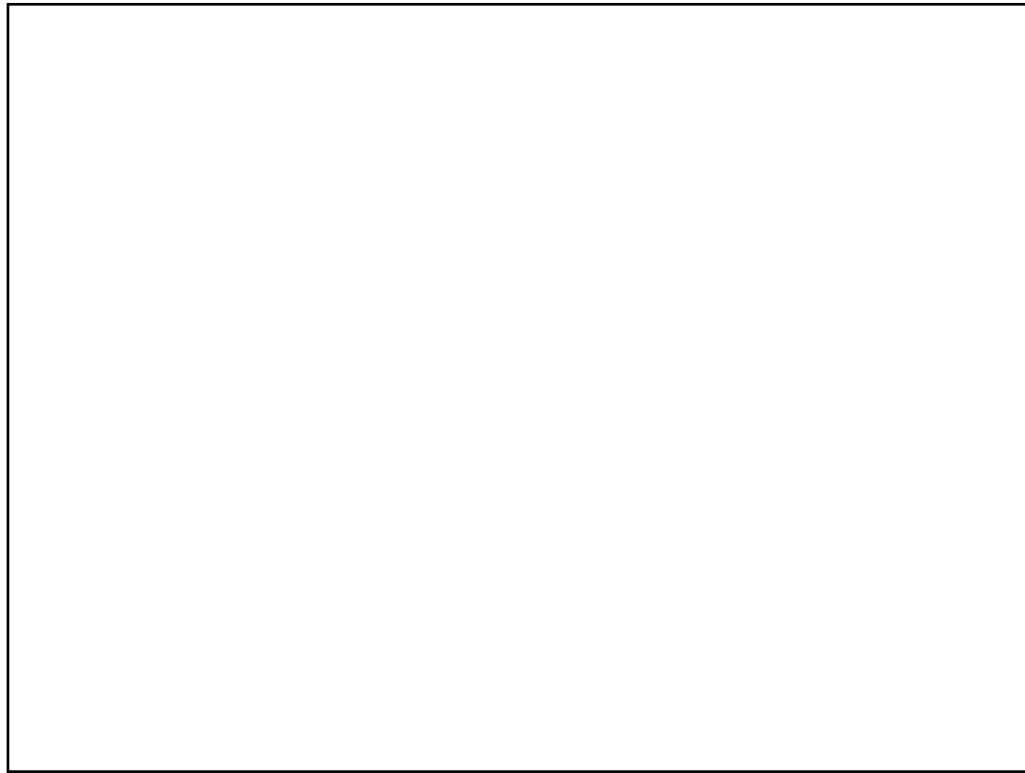


福祉と教育の合同研修：

- ① 基礎講座＋グループで架空事例の検討
- ② ペアレント・メンターのお話＋グループディスカッション



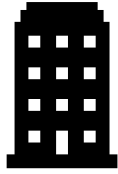
- 共通言語＝発達障がい特性を共通理解することの重要性を共有
- 研修のコーディネート（講師含む）



※福祉教育合同研修の様子

感想：

- メンターの実体験の話はイメージがしやすく保護者の想いがよく分かった。親や生徒の気持ちを置き去りにしない様に日々の支援に活かしたい。
- 教育／保育／福祉の連携不足がある。現場からも定期的な開催を希望する声が多く挙がった。教師もこの様な場で悩みを共有でき、励まされた。通常学級の担任も参加できるように輪を広げていきたい。
- 初めて市内で発達障がいの特化した合同研修が実施できた。人材育成と連携の場をいかに継続していきけるかが今後の課題。



門真市
(人口：12万人)

- ◆ H28（児童専門部会）～H29年度（相談専門部会）に発達障がい者地域支援マネージャー事業を活用
- ◆ 各専門部会は活発に活動しており、それぞれの支援者が課題を認識している反面、部会や市全体として整理しきれていないところがある（例：学校・事業所・保護者の連携がうまくいっていない、知的障害を伴わない方の場合、18歳以降の支援が切れてしまう等）
- ◆ まずはサブ協議会で発達障がい児者支援についての地域課題を抽出し、根拠に基づき整理したい。今後門真市において発達障がい児者支援の向上に向けての取組みを考える際のきっかけづくりにしたい。

サブ協議会でQ-SACCSを行う
事務局のバックアップ

障害者地域協議会

サブ協議会

サブ協議会
事務局会議



アクトおおさか：
地域支援マネージャー

- 地域診断ツール（Q-SACCS）の提案⇒説明研修⇒サポート
- つなぎの重要性を共有
- 課題をもとに体制整備に向けての助言

就労専門部会

相談専門部会

障がい専門部会

児童専門部会

精神保健専門部会

地域移行専門部会

障がい者差別解消専門部会

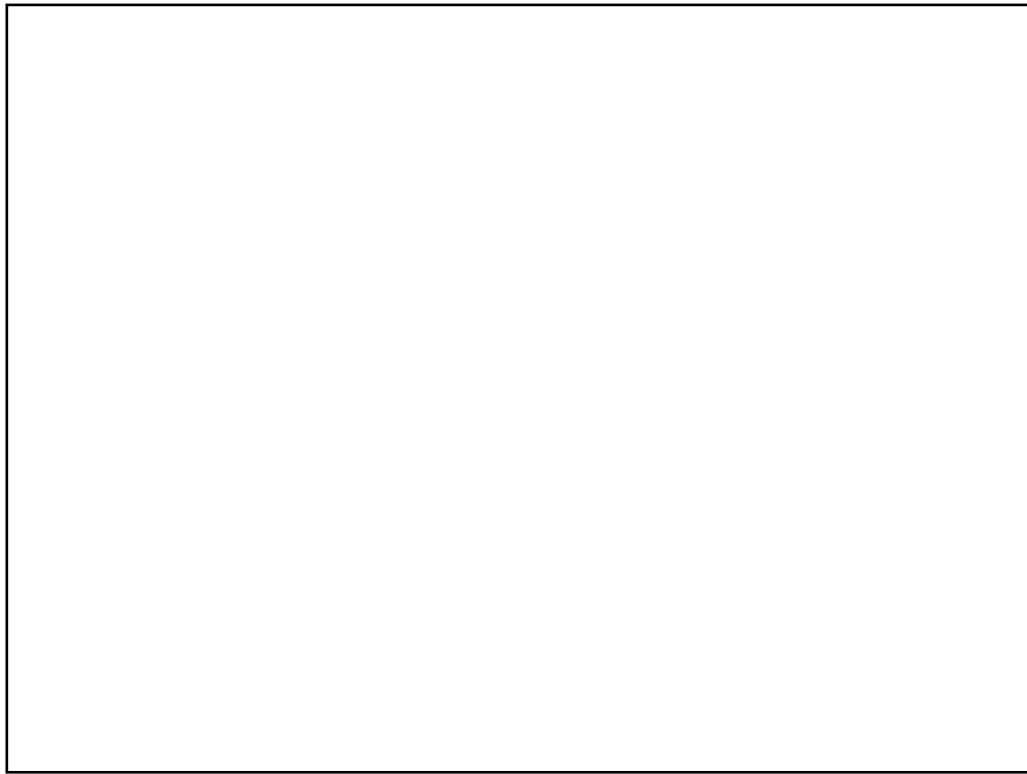
①事務局会議のメンバーとアクトおおさかとで、Q-SACCSを作成

②サブ協議会で各部会の代表者に説明&体験
※子どもと成人に分かれて実施

③各部会に持ち帰りQ-SACCSを実施

④各部会から挙がってきた資源と課題は取りまとめられ、サブ協議会で共有

⑤全ての課題に対してどの専門部会を中心に議論を進めるかを検討。来年度は、課題に対して市としてどんな取組みができそうかを検討する予定



※サブ協議会でQ-SACCSを実施している様子

感想：

- 市の発達障がい児者支援の資源が一枚で分かる支援マップが完成した。支援機関が困った時の助けになり、相談者にも情報提供しやすくなる。
- Q-SACCSを引き続き活用し、各部会で課題を継続的に検討するシステムをつくることが大切。課題に対する取組みの優先順位を決める際の1つの根拠にもなる。
- 出てきた課題に対して市としてどの様な取組みができるかを今後検討する予定。障がい福祉分野に留まらず、多分野と協働していかないといけない課題も見えてきた。

アクトおおさかの振り返り

- 支援ニーズの多様化・複雑化に伴い、機関間・多分野間の連携やネットワーク構築が必要不可欠
- 既存のスキーム（自立支援協議会・会議など）を活用した人材育成やネットワーク構築のためのシステムづくりが重要。現状把握のためには、地域アセスメントが必要
- 市町村の主体性と官民協働の姿勢が鍵になる

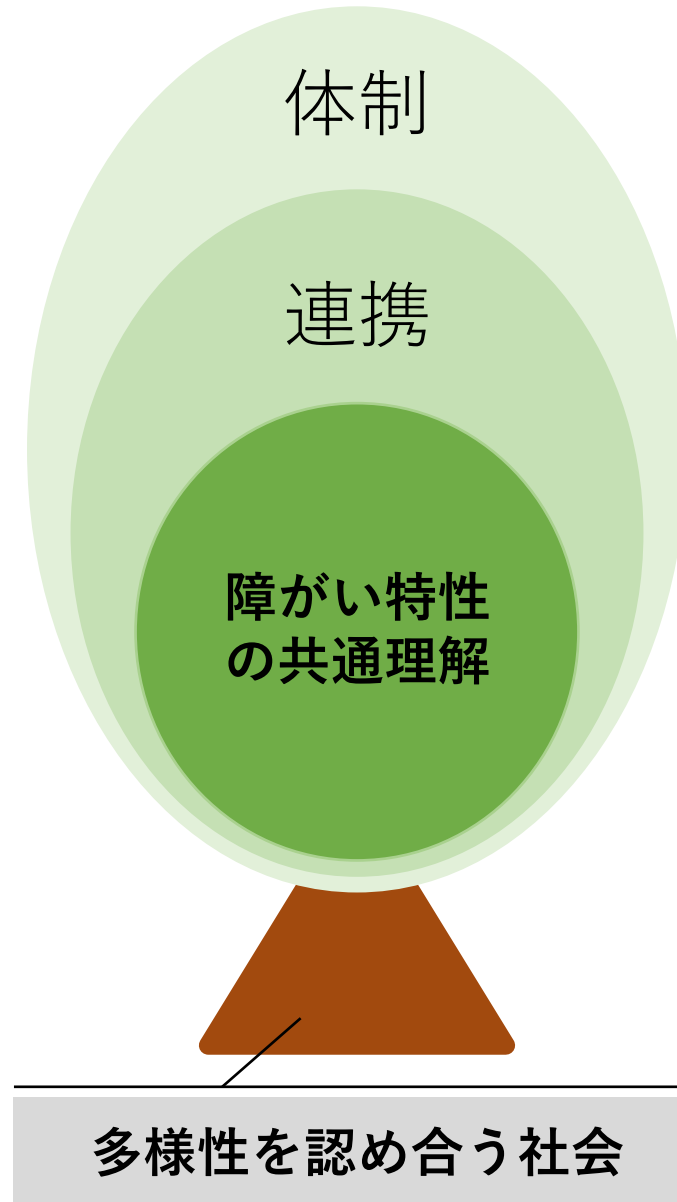
**発達障がいのある人が身近な地域で安心して暮らし続けるために
ライフステージを通した切れ目のない支援を目指して**

まとめと今後について



継続している課題（一部例）：

- 多様化、複雑化したニーズへの対応（制度の狭間、潜在的な支援ニーズ等）
- 親亡き後（引きこもり、8050問題等）
- 支援が途切れやすい現状（ご本人・ご家族の頑張りに左右、実用的なサポートブック等）
- 見えない障がいが故に理解されづらい



ご本人・ご家族の
ニーズを中心に

アクトおおさかの役割

- ご本人・ご家族の代弁機能
- 発達障がいの理解を広める取組み（ご本人の発信も含めた）
- 個々に合わせた支援（環境調整を含む）を考えることができる支援者の育成
- ネットワーク構築（障がい福祉に留まらない関連分野も含めた）
- 大阪府や市町村との協働による、ライフステージを通じた一貫した支援体制づくり

大阪府の強みを活かしたチームおおさかでの取組み